

第 61 号

平成 28 年 9 月 27 日

編集発行
足立区青少年委員会
広 報 部
足立区教育委員会
青 少 年 課
<http://adachi-seishounen.jp>

足立区青少年委員会だより



区の花：チューリップ

あだち

青少年委員に委嘱され各ブロックの活動が始まります



委嘱状交付



委嘱式後の臨時定例会



全てのブロックで教育懇談会を開催



年中行事・記念日を大切にしている取り組み…事業部による区役所アトリウムに飾りつけ



ジュニアリーダー研修会に協力(1B)



ブロック活動として学校訪問(3B)

会長挨拶



青少年委員会

会長 下川 佐智子

このたび四月より、今期の青少年委員会会長を仰せつかりました下川佐智子です。よろしくお願いいたします。

さて、昨年度「子どもの健康・生活実態調査」が、区立小学校在籍の一年生を対象に行われました。結果報告では、子どもの家庭環境や生活習慣を整え、子どもの健康を守るために、三つのお願いがありました。

- ① 親を孤立させないよう声をかけ
- ② 子どもを褒めて認め
- ③ 周りの大人、皆さんが健康でいてくださいということでした。

私たち青少年委員は、子どもたちが健やかに成長していくことを願い、そのお手伝いとなるよう学校・地域・他の健全育成団体と関わりながら今後とも取り組んでまいります。

皆さまも健康にご留意ください。

新任研修に参加して

「思いをつなぐ」

第十三ブロック 丸岡 朋子

五月二十三日、区役所庁舎ホールにて新任研修会が開催されました。定野司教育長を講師に迎え「子どもたちに明るい未来を 成長を実感できる教育を！」と題した講演と、グループディスカッションが行われました。

講演では、足立区の現状から青少年委員の役割、特に子どもの居場所として放課後の過ごし方について熱く時にユーモアを交えて語られました。

今多くの家庭では、核家族化が進み世代を超えての交流が不足している。共働きにより親子間でもコミュニケーションが不足。

- 不足している体験として
- ・ヒト体験（コミュニケーション）
- ・コト体験（初めて体験する事柄）
- ・モノ体験（見たり触れたりする）

「例えば、スマホを手放せない子どもたちに何を代わりに示したらいいのか。スマホより楽しいもの・面白いものの体験をさせてあげたい、それを一緒に考えて欲しい」とメッ

セージが送られました。

子どもたちに身につけて欲しい生き抜く力として

- ① 健やかな体
- ② 豊かな心
- ③ 思いやりや倫理観・公共性

確かな学力
私たちが地域の力として携わるうえで、子どもたちにより多くの体験を、地域の資源や人材発掘を通してどんな事が出来るのか、ぜひ考えて欲しいと「宿題」が出ました。

子どもたちに明るい未来を、ともに成長を実感できる一年にしたいと思いをつなぎます。

「責任の重さを感じて」

第一ブロック 稲垣 まゆみ

青少年委員に委嘱され、委員の役割とはどんな事だろうと思いつながら新任研修会に参加しました。

定野教育長から「子どもの居場所と役割」、「未来を生き抜く為に必要な力とは」等の内容で、成長を実感できる教育とは、学校・保護者・地域・青少年委員の協力が必要であり、現代の子どもたちに不足している経験を結び付ける役割が重要で、それを補うのが地域や青少年委員です。特に、放課後の過ごし方が大切であり、この時間をどう過ごしたかで将来の生き方や夢が決まるといってお話しに、委員としての役割の重要性を感じました。

学校と地域の方々との深い信頼関係を築けるよう委員の先輩方からアドバイスをいただきながら、多くの子どもたちに「自分たちで何かをやってみよう！」とチャレンジする意欲を持って貰えるように一杯活動していこうと思えます。



新任研修 定野教育長の熱いメッセージを聞く



来の生き方や夢が決まるといってお話しに、委員としての役割の重要性を感じました。

学校と地域の方々との深い信頼関係を築けるよう委員の先輩方からアドバイスをいただきながら、多くの子どもたちに「自分たちで何かをやってみよう！」とチャレンジする意欲を持って貰えるように一杯活動していこうと思えます。



定野教育長もグループ討議に参加



先輩委員にアドバイスをもらう新任委員

退任にあたって

「退任にあたり思うこと」

前副会長 中屋房一

青少年委員を委嘱された十四年間、委員だから体験できた活動は生涯のページに成ったと思います。

新任当初の一年間は委員会、関係団体へ全て参加し内容を把握する事に専念し二年目以降は自分自身で方向を決め活動しました。委員会では専門部全てに関わり、広報部で第一号「年中行事：」カレンダーが作成決定となり四日間で原稿を作成した事。宿泊研修では日頃お話をする機会がない方々とも知り合え、その後は気安く話ができて活動できた事。ブロック長、委員会会計、副会長と経験し今思う事は、時代の変貌で取り組む内容が多々ありますが基本の「健全育成」は変わらないと思います。個々に得意な分野で活動し、苦手な分野はできる方を見習い競争ではなく、お互いに協力し足立区の子どもの為に委員会の確立と委員としての向上を期待します。

「青少年委員とはー」

前副会長 栗田泰夫

青少年委員が中学校校区に新設され

た年に委嘱を受け、『青少年委員ってなあく』という疑問からスタートして六期十二年間、私なりに微力ながら活動をして参りました。

開かれた学校づくり協議会も発足して、徐々に機能してきた中、学校・PTA・地域との仲介役として青少年委員として活動できたことは、とても良かったと思っております。

青少年健全育成という名の大義名分の下で、色々な組織に関与するようになり、その中で自分の立ち位置、青少年委員としての立ち振る舞いを模索し、私なりに鑑みると『机上の激論』から生まれた中からコンセンサスを語り、ベクトルの向きを同一方向に向ける役ではないだろうかと悟りました

三月三十一日付をもって、二十五名の委員が退任いたしました。
永年にわたり、青少年健全育成にご活躍いただき、ありがとうございました。

運動会の新たなチャレンジ

第十ブロック 人見真吾

本年度は皆さんもご存知の様に、組体操に代わる新しい種目を模索する年となりました。竹の塚小学

校でも保護者や高学年の子ども達が楽しみにしていた組

体操に代わり「児童が一体感・達成感を味わう事ができ、見ている方も感動できる種目」を検討しまし



竹の塚小学校「心ひとつ」大ウェーブ

た。そして完成したのが「心ひとつ」です。これは隊列による交差・ボディパーカッション・ウェーブ等、全員が心をついにしないと達成できない表現種目です。最初、子ども達から「無理だ」という言葉も出る中、何度も何度も練習してきました。

運動会当日、五・六年生百二十一名が青空の下、練習の成果を思いっきり発揮する事ができました。

会場からはどよめきと拍手が飛び交い、保護者や地域の方々からの「感動した」という言葉に、子ども達の笑顔は達成感に満ち溢れていました。この運動会が子ども達の小学校生活の良い思い出となる事を心より願っています。新たにチャレンジ

する事は子どものみならず先生方も大変だと思えます。一生懸命ご指導くださった先生方に改めて感謝申し上げます。

宿泊研修会

第六ブロック 三枝孝次

六月十八日・十九日、六ブロックは恒例の宿泊研修会にOBの皆様もお誘いして、今年は榛名山・伊香保方面へ行ってきました。

地域特産の舞茸に関する知識を深めた後、リピーターが多いと評判で入館者数が増え続けているという、

「伊香保おもちゃ人形自動車博物館」で、その観光客を飽きさせない魅力を探りました。昼食の水沢うどんに舌鼓を打った後は、三十度近い暑さの中、伊香保温泉の三五六段の石段登りも敢行し、身体を鍛錬しました。伊香保神社、榛名神社を巡る等、知力・体力その他を鍛え、今後の委員活動へのエネルギーを大いに充電することができました。



石段を登ったあとの伊香保神社で

研修部活動

研修部長 高橋 将郎

今年度の研修部では、年間を通して「青少年委員としてスキルアップしたと実感できた」と思える研修会等を開催していきたいと考えております。

5月23日の新任研修会においては、定野司教育長のご講演とグループディスカッションが行われ、青少年委員としての役割と立場を理解し合えたのではないかと思います。

今後も、9月の全体研修と来年2月の日帰り研修会では、各研修部員との意見調整を行いながら有意義な企画立案をしてまいります。

「学校・地域・子ども達との繋がり」の要として、青少年委員が活動できる研修内容に取り組んでまいります。

事業部活動

事業部長 館山 晴美

事業部は数多くの事業を抱えております。本年度も、1つ1つの事業を大切に、ご参加くださる皆さまに楽しんでいただけるよう、親睦が深まるよう創意工夫し、事業部員一同楽しみながら活動してまいります。

また、6月に開催いたしました第22回青少年健全育成団体親睦ソフトボール大会においては、中学校PTA連合会が優勝。さらに6年ぶりに青少年委員会が敢闘賞、と大いに盛り上がったと感じております。各関係団体の皆さまのご協力ありがとうございました。

今後の事業につきましても事業部員一丸となり取り組んでまいります。

9団体が優勝めざして



熱戦の幕開け「始球式」



親睦ソフトボール大会



ケガをしないようにしっかりと



応援にも熱が入ります



新任委員(敬称略)
第十三ブロック
清野 美貴

足立入谷小学校担当

平成二十八年

八月十二日から委嘱

私たちが広報部は、多くの方に興味をもって読んでもらえる広報紙をお届けできるよう、これからも活発に取材活動を行い、得られた情報を正確に発信していくつもりです。先日広報部を対象とした広報紙作成スキルアップ研修を行いました。その成果を今後の紙面作りに役立てたいと思っております。

また今年度からホームページの運営や更新も広報部で担当します。年二回の「だより」ではお伝えできないタイムリーな記事もパソコンやスマホでご覧になれますので、「お気に入り」に加えてみてください。

編集後記

広報部長 佐藤 健二

平成二十八年度も青少年委員会全体の活動はもとより専門部や各ブロックの活動、委員個人の地域や学校での活躍等を紹介していきたいと考えております。委員の皆さまからの旬の情報をお待ちしております。